

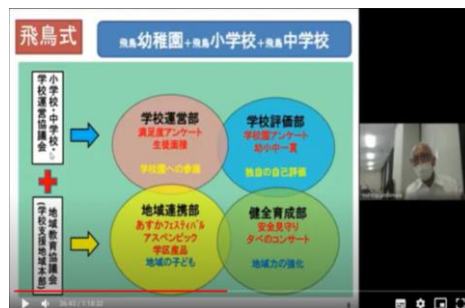
令和3年度 奈良県コミュニティ・スクール連絡会〔市町村立学校〕 実施報告

- 《日 時》 令和3年9月24日（金） 13：30～16：00
 《方 法》 Google Classroom 及びMeet を利用し、オンラインで実施
 《参加者》 学校運営協議会を導入している市町村立学校の管理職、地域連携担当教職員 計 67名
 《内 容》 13：30～13：35 開会
 13：35～14：45 講演「応援団から協働パートナーへ」
 奈良県CSアドバイザー 竹原 康彦
 14：55～15：55 情報交換・意見交流
 15：55～16：00 閉会

◆ 講演概要

「応援団から協働パートナーへ」と題して、コミュニティ・スクールを推進する上で地域と熟議を重ねていくことの大切さについて、具体的な実践を基に御示唆いただいた。

- ・ コミュニティ・スクールを導入する前は、学校支援地域本部事業を中心に地域学校協働活動の取組が進められていた。それぞれの校区には、地域教育協議会が組織され、地域の方々による学校支援の取組が進められていた。
- ・ コミュニティ・スクールを導入するにあたり、準備委員会をスタートさせた。地域教育協議会の会長をはじめ、校区にある奈良教育大学の教授にも委員となっていただくことで、様々な御示唆をいただいた。
- ・ 地域の力を学校教育に生かすためにはどうすればよいのかと考えて、先進地視察のため横浜市立東山田中学校を準備委員会の委員と一緒に訪問した。校舎の造りが地域に開かれており、地域の方が思いのままに利用できる校舎となっていることに驚かされた。
- ・ 小学校と中学校の教職員、保護者、準備委員会の委員で熟議をスタートさせた。熟議を重ねることで、子どもたちの課題を教職員だけで検討するよりも、様々な角度や立場からの考えや思いを聞き合うことができ、私たち教職員にとっても新鮮な体験となった。また、熟議を重ねていくことで、委員の皆さんにも当事者意識が生まれていったと感じる。熟議を重ねていくことで教職員、保護者、地域の方々考えていることや感じていることを共有し続けることが大切である。
- ・ 「社会に開かれた教育課程」の実現や「地域と共にある学校づくり」を継続させていくためにも熟議は必要だと考える。教職員、保護者、地域の方々誇りをもてる学校にしていくためにも、学校の教育ビジョン設定に学校運営協議会の果たす役割は大きい。教職員とは違う視点で学校を見つめ、建設的な意見や耳の痛い意見をいただくことが大事であると思っている。
- ・ 実際のコミュニティ・スクールは、それまで学校の応援団として進めてきた取組を学校運営協議会にも活かしていくため、部会制（学校運営部、学校評価部、地域連携部、健全育成部）を取り入れた。学校運営協議会の性質をもった「学校運営部」と「学校評価部」、地域学校協働本部の性質をもった「地域連携部」と「健全育成部」がそれぞれの役割を果たしていくことになった。
- ・ コミュニティ・スクールを進めていくためには、コミュニティ・スクールで何が変化したのかを点検・評価するための指標を準備しておく必要がある。その指標として、全国学力・学習状況調査の質問紙にある項目を利用した。また、学校評価部として、地域学校協働活動に対するアンケートを実施して、点検・評価することも行っている。
- ・ コミュニティ・スクールを推進するという事は、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしながら、協働して学校や地域を創り上げていくことだ。そのことが、学校の活性化や学校改革につながり、地域の活性化にもつながる。毎年、同じことを繰り返すだけでは、コミュニティ・スクールは衰退してしまう。学校・地域・家庭が同じ目的で新しいことをどんどん取り入れていくことによって、学校改革や意識改革ができるのではないかなと思う。



◆ 情報交換・意見交流

ワークシートを基に各校のCS推進状況について12のグループに分かれて情報交換を行った。その後、話し合った内容を全体で共有し、竹原アドバイザーから指導助言をいただいた。

- ・ 取組情報を発信していくときに、フィードバックできる仕組みが必要ではないか。発信した情報に対する意見が返ってくると次につながっていくことになる。
- ・ 広報の作成が教頭の仕事になっているのが気になる。これから組織を充実させていくためにも、広報活動を担える委員やコーディネーターを育てていくことも意識してほしい。

《参加者の感想》

- ・ 教職員も含めて、理想の学校・理想の生徒像等の熟議を重ねられているところが素晴らしいと思った。
- ・ 中学校校区として縦のつながりを大切に決めていく形も魅力的だと感じた。
- ・ いつも地域の方には最後の段階でお願いばかりしてきたように思う。もっと最初の段階から一緒に考え話し合うことで、同じ方向を向いて共に前に進めるのだから気持ちが少し軽くなった。

